

施設栽培ブドウ「紫玉」の無核化栽培による早熟化と品質向上					
<p>[要約] 無核化処理されたブドウ「紫玉」は、「巨峰」に比べ糖度が高く、着色が良好で「巨峰」より20日程度早く収穫できる。また、1房450～500gの果実生産が可能であり、10a当たり収量は1.7t程度である。</p>					
佐賀県果樹試験場・落葉果樹研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ブドウ

[背景・ねらい]

佐賀県におけるブドウ栽培は、5月に収穫する早期加温ハウス栽培を除き、梅雨期の長雨・日照不足、夜間の高温等の影響による着色の遅れや商品性の低下が問題となっている。そこで、施設栽培下における「紫玉」の無核化栽培技術を確立し、着色等果実品質の向上と成熟期の促進を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「紫玉」は「巨峰」より糖度は高く、減酸も早い（図1、図2）。また、「紫玉」の着色始めは「巨峰」より約10日早い（表2）。
2. 収穫時の果実品質は糖度、着色とも「紫玉」が高い。一果房重は「紫玉」、「巨峰」間に大きな差はなく450～500gの果房となる。また、一粒重は「紫玉」がやや小さい（表1）。
3. 収穫時の着色割合は、カーチャート値10以上の着色良好な果房が「巨峰」は約50%であったが「紫玉」は約70%である（図3）。
4. 1㎡あたり着房数と平均果房重から算出した10a当たり推定収量は、「巨峰」、「紫玉」ともに約1.7tとなる（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 無核化処理は1回目を満開期に、2回目は1回目処理の10日後に実施する。いずれも果房浸漬処理とし、濃度は1回目ジベレリン25ppm+フルメット5ppm、2回目はジベレリン25ppmで行う。
2. 1月下旬から2月に加温を開始し、着色不良となりやすい6～7月に成熟期を迎える作型のハウス栽培に適用する。
3. 無核処理すると果軸が硬化し脱粒しやすくなるので、果粒が密着するよう房づくりを行い、収穫・調整はていねいに行う。

[具体的データ]

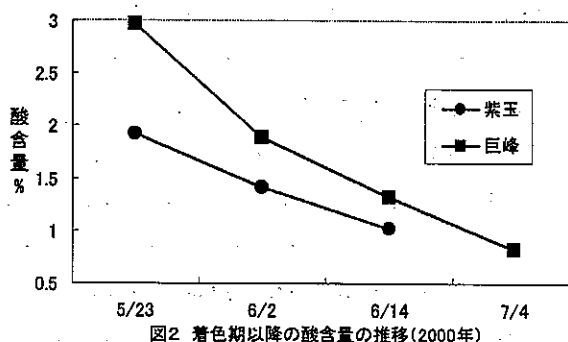
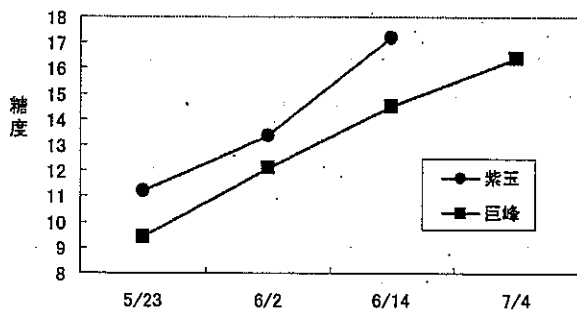


表1 収穫時の果実品質の比較(1999, 2000年)

	品種名	果房長mm	果房重g	着粒数	一粒重g	着色 <sup>a)</sup>	糖度	酸含量%	pH
2000年	紫玉	162.2	477.4	47.8	10.0	10.8	19.5	0.65	3.46
	巨峰	159.2	466.7	43.4	10.8	9.4	17.2	0.57	3.56
1999年	紫玉	147.1	374.4	38.4	9.8	11.8	19.1	0.76	3.35
	巨峰	166.4	506.2	42.4	12.0	10.1	17.9	0.70	3.42

注①調査日、2000年：紫玉6/29、巨峰7/18、1999年：紫玉6/30、巨峰7/14

②<sup>a)</sup>着色はカラーチャート値

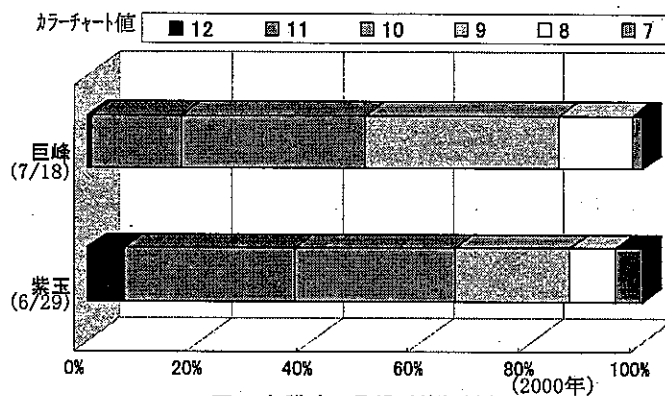


表2 生育時期の比較(1999, 2000年)

	品種名	加温開始	満開期	着色始め	収穫期	満開～収穫始までの日数
2000年	紫玉	2/8	4/7	5/10	6/20～	75日
	巨峰	2/8	4/5	5/20	7/10～	95日
1999年	紫玉	2/18	4/12	5/17	6/20～	70日
	巨峰	2/18	4/13	5/28	7/8～	85日

[その他]

研究課題名：ブドウ新品種の生産安定と省力化栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成10～16年

研究担当者：福田浩幸、松瀬政司、稻富和弘

発表論文等：園芸学会九州支部研究集録第8号、2000。

平成11、12年度落葉果樹試験研究成績概要集・栽培関係2